

築100年超の古民家をリノベーションしたコミュニティスペース

天竜二俣 **どんつき**



高さの抑えられた可愛いプロポーションの外観。
手を加えることを極力控え、錆びた鉄板屋根さえも歴史の一部として取り込んだ。

築100年超の古民家をリノベーションした コミュニティスペース「どんつき」

江戸時代以降に天竜川の水運、繭の集積所、秋葉街道の宿場町として栄えた遠州北部の町。計画地は昭和レトロな古き良き街並みが残る商店街の“突き当り”。そんな商店街の街歩きをしている中で、どことなく落ち着いた佇まいの建物がふと目に留まった。それは地域住民からも忘れられていた何でもない一軒の空き家であった。

商店街は今変革の時期を迎えており、年々新しい店舗の出店が増え少しずつ昔の活気を取り戻しつつある。しかし、そこには地域住民と新しい事業者たちが交わり、地域の魅力を発信・再発見する場所が欠けているように感じられた。

地域の歴史を纏った築100年の古民家を舞台に「つどい・つながり・はじまる」、そんな誰もが自由にやってみたくを後押ししてその一歩をかたちにできる場所、コミュニティスペース“どんつき”が誕生した。



建築概要

所在地	浜松市天竜区二俣町二俣
規模・構造	木造2階建て
築年数	100年
敷地面積	240.09㎡
建築面積	77.09㎡
延床面積	116.84㎡





エントランスから見た1階室内。
既存の梁や柱・踏み天井・建具などを活かしながら、
耐震補強が施されていることを感じさせない空間を心掛けた。



家財が取り残された室内はどこか寂しそうに見える。



1年以上掛けて片付けられた室内。注目ポイントは押入れ内に貼られた昔の新聞紙。



既存床をめくり上げ、建物の基礎から根本的に直し、100年先まで見据える。



2階室内。天井を剥がした跡には土壁が見える。
壊さず残すことで、建物の歩んできた歴史を利用者に感じとってもらおう仕掛けとした。



BEFORE

40年程前にリフォームを行ったと想定される室内。
空間は2部屋に間仕切られ、天井板のプリント合板が立派な丸太梁を覆い隠していた。



CONSTRUCTION

数十年ぶりに露わになった地松の丸太梁。
ついに日の目を浴びてどこか嬉しそうに見える。



建具表面を鏡貼りとして、室内に広がり・奥行感・連続性を与えた。
建具背面は壁として使えるように細工され、リバーシブル仕様となっている。